

【団体名】一般社団法人ソーシャル・アーティスト・ネットワーク

事業報告書

事業名	パラアート地域交流サロン推進人材育成事業	
	【計画時の事業内容】	【実施結果(成果)】
<p>■障害を持つ方・その保護者・関係者が参加する座談会 & ワークショップの開催 [座談会@療育ねっとわーく川崎 の開催] 障害を持つ方が、パラアート地域交流サロンの企画・スタッフ陣営として参加いただくための要望・意見をヒアリングすべく座談会を開催 [ワークショップ@誰でもアート交流サロン「遊」準備・開催] 障害を持つ方が推進役や一部のスタッフ的な役割を担うアートワークショップとして開催</p> <p>■フリーランス音楽家・アマチュアアーティスト向け講座準備 パラアート活動に関する意見や希望、これまでのパラアート地域交流サロンでの感想や意見などを収集 ・当事者・保護者、施設職員(川崎授産学園、ソレイユ川崎関係者)、サロン参加者(音楽交流サロン「奏」、アンサンブル「響」に参加する市民や協力者)</p> <p>■講座 ・かわさき市民活動センター: 講演 ・川崎授産学園、ソレイユ川崎 講演は、4 回実施予定 見学説明会は、サロン「奏」開催日(6 回)に実施予定 ワークショップは、「響」開催日(4 回)に実施予定</p> <p>■講座開催の告知 [チラシ配布] ・市内アート系施設、区民センター、区民ホール他 ・昭和音大、洗足音大 ・市民アート活動団体、サロン「奏」市民企画出演者など [地域メディアへの記事掲載(タウンニュース他)] [SNS(Facebook)発信]</p>	<p>■障害を持つ方・その保護者・関係者が参加する座談会 & ワークショップを療育ねっとわーく川崎で開催 ・ヒアリングを実施し、オリジナル手作り楽器を作って、演奏に参加することへの要望が強かった ・ワークショップを 12 月 7 日「ウェルフェス」(療育ねっとわーく川崎主催の地域イベント)にて実施 ・障害を持つ S 氏によるパソコンアートで描かれたバラの絵をシール化し、オリジナル手作り楽器の装飾として張り付けられるようにしたことで、S 氏ならではの役割を確立した</p> <p>■ヒアリングの実施 ・フリーランス音楽家:ソプラノ歌手 W 氏よりヒアリング ・音楽交流サロン「奏」企画:I 氏よりヒアリング ・コーラス奏メンバーにアンケートでヒアリング ・ヒアリング内容を基にパワーポイントにて各講座資料作成 ・講演場所:やまゆり、かわさき市民活動センター ・見学会:希望者がいなかったので未実施</p> <p>■講座実施 ・ソーシャル・アーティスト入門講座 (10/28 やまゆり、11/29 かわさき市民活動センター)計 10 名参加 ・パラアート・コーディネーター入門講座 (12/1,12/21 かわさき市民活動センター)計 20 名参加 ・見学説明会は未実施(希望者無し)</p> <p>■講座開催の告知 ・「ソーシャル・アーティスト入門講座」「パラアート・コーディネーター入門講座」 [チラシ作成・配布] ・各 2,000 枚(計 4,000 枚)作成・配布 ・昭和音大、洗足音大への配布依頼 ・かわさき市民活動センター、やまゆりでの配架 ・各区社会福祉協議会での配架 [インターネット] ・Facebook の川崎市各地グループ(約2万人)への告知 ・「音楽の街かわさき」HP ・川崎市生涯学習財団 HP</p>	

【計画時の事業目的(取組課題)と実施効果】

- パラアート地域交流サロンの継続的推進・展開(新規開設)の課題
 - ・人材は、アートに関するだけでなく、障害を始めとする福祉的なマインド、企画・運営・問題解決スキルなど様々なものが求められる
 - ・障害を持つ方にも人材となれる機会を作ることが必要
 - ・一人で上記スキルを全て持つ必要はないが、事業継続・持続性を図るべく、人材育成機会の礎を構築する必要がある
- 人材候補対象となるアーティスト自身の活動ニーズに応えるべく上記課題解決に適用する
 - ・プロ、特に(若手)フリーランスの演奏家は、自身のコンピタンスを明確にしないまま、社会的責任や差別化を図れていないため活動推進が困難に陥りやすい。その課題解決ニーズに応える
 - ・アマチュアのアーティストには、活動の幅を広げたいニーズに応える
 - ・市民アート団体においては、地域社会貢献ニーズに応える
 - ・障害の有無に関わらずスタッフ陣営として参画できるニーズに応える
- 既存のパラアート地域交流サロンがその人材育成の場としても位置付けられるようになる
 - ・音楽交流サロン「奏」: 人材育成のインターン的な場としての位置づけ・役割を確立できる
 - ・アンサンブル「響」: 障害を持つ方とのミュージックベルでの音楽演奏体験の場として位置付けられる
 - ・誰でもアート交流サロン「遊」: 障害を持つ方の人材育成の場として位置付けられる
- 各地へのパラアート地域交流サロンの新規開発が可能
 - ・人員が確保されることで、新たなパラアート地域交流サロン新規開設に寄与できる
- フリーランス音楽家、アマチュアアーティストにおける活動課題ニーズに応えるべくパラアート地域交流サロンが位置付けられるため、さらなる人材確保に繋がる
- 障害を持つ方の帰属意識・自己承認を得られ、成長意欲に繋げることができる
 - ・障害を持つ方のパラアート地域交流サロンで活躍すべく人材育成ノウハウを蓄積できる

【実際の効果と課題】

- パラアート地域交流サロンの継続的推進・展開の課題
 - ・パラアート地域交流サロンを推進できる(したい)人材は多くいるという結論に至ったが、下記の課題が見出された[課題]
 - フリーランス音楽家
 - ・現時点では、収益に直結しないと多くの人には関心を得ることが難しい(請負体質、起業マインドに課題)
 - ・しかし、参加者(音大生)が当講座を聞いて、覚悟を決め活動に動き出せたと、感謝メールを寄せてくれたり、一般の方から講座内容の評価は高かったことから、一般の方(事業実務経験者)と音楽家との事業意識のギャップを埋めるべく下記のような内容についてのレベルに応じた段階的サポートが必要かと考えられる
 - ・起業サポート(リサイクル開催、ユニット結成支援、HP作成、広報、弊団主・共催収益事業参加等)
 - ・起業、事業スキル&ソーシャルマインド育成
 - アマチュアアーティスト、市民アート団体
 - ・講座参加者の関心の高さを伺えたが、パラアート・コーディネーターとして、新しく活動することに対してハードルが高いという認識であることも伺えた
 - ・責任: パラアート・コーディネーターとしてのミッションの責任の重さを感じるので相応の覚悟を求められることへの不安がある
 - ・時間: 現在の生活(私生活、アート活動)に新たな活動を始めることへの負担を感じる
 - ・課題としては、負担の軽い参加形態から、既存活動とシナジーができるようものを準備し、段階的にパラアート活動に参加できるような仕組みが必要である
 - ・演奏、制作のみの参加(スポット参加)
 - ・アート技能向上を目的としたアート講座(受講者コミュニティ→パラアート活動→パラアート・コーディネーター)
 - ・既存活動の場(場所)の提供(福祉施設連携)
 - ・アンケート結果やワークショップ実施により障害を持つ方にも十分パラアート・コーディネーターとして活躍できることが明確となったが先ずは上記課題を解決する必要がある
- パラアート地域交流サロンプラットフォーム事業化が課題
 - 以上のことから、弊団においてプラットフォーム化を検討することが一つの大きな課題であり、資金面がハードルとなる